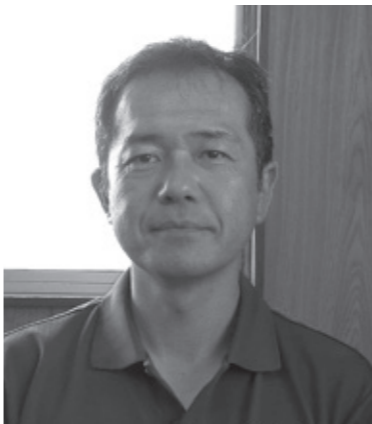


こころは健康組合です！

松戸運送株式会社の巻 (松戸市)



2016年伊勢志摩以来の日本開催となったサミットが5月に広島で行われ、G7首脳が平和記念公園を訪問。原爆死没者慰霊碑への参拝、献花などが行われました。サミット期間中には、ウクライナのゼレンスキー大統領が電撃来日するなど、核の被爆地である広島が世界から注目を浴びました。世界



▲梅澤社長

が進む平和への道に反して、2022年2月にロシアが一方的にウクライナへ侵攻した戦争は1年半以上が経過。ウクライナの民間犠牲者は増え続けており、改めて「平和」への祈りと、争いがなくなることをお願いしてやみません。

☆☆☆

今年の夏も日本各地で連日35℃以上の体温を超える高温が観測されました。世界各国においても同様に猛暑が報告され、国連事務総長は、「地球温暖化の時代は終り、地球沸騰の時代が到来した」と警鐘を鳴らしています。

朝から強い日差しが照りつけた8月3日、第81回目の事業所訪問先として、松戸市に本社を構える

松戸運送株式会社（梅澤朋彦社長）にお邪魔しました。

同社は、松戸市のほぼ中央、新京成電鉄の八柱駅からほど近い場所にあり、近隣には大ホールや会議室など、様々な施設を有する地域密着型の複合施設「森のホール21」があります。松戸市は、都心から電車で約30分の距離にあり、首都圏のベッドタウンとして発展を続けています。

「こんにちはトラック健保です！」と2階事務所を訪ねると、業務ご多忙のところ快く今回の取材に応じてくださった梅澤社長に迎えられました。

松戸市で初となる 運送事業者として誕生

松戸運送は、戦後の日本経済の成長とともに貨物輸送の需要が増す中、昭和21年に青果の仲買業者として産声をあげ、困窮にあった食糧不足解消に寄与されました。昭和29年6月には、松戸市内で初となる運送事業者として、社名を松戸運送株式会社と改め、運送事業をスタート。当時の日本は、家事労働の電化が進み、白黒テレビ・

洗濯機・冷蔵庫が「三種の神器」と呼ばれ、豊かな生活の象徴として国民の関心を集めた時代です。

その後、業績が軌道に乗ると、昭和45年には低温輸送に対応すべく保冷バン型車輛にて乳製品・食品等の輸送、昭和51年には納品代行業務に当たり事業区域を東京都まで拡張するなど、低温輸送時代の先駆的役割を果たされ、社会の発展を担う流通のパイオニアとして、現在に至っています。

今後の事業展開を伺うと、3代目である梅澤社長は、「先代が長年にわたり築き上げた経験と知識を基に、安全・正確・迅速にして円滑な輸送を確保し、既存の取引先の様々な要望や時代のニーズにきめ細かく対応していきます」と言及されました。

従業員が快適に働きやすい 環境づくりに取り組む

社員教育については、同社の勤務体制は24時間シフトであり、従業員が一堂に会することができないため、安全運転マニュアルの配付や、適宜、運転技術の習熟度を測定するなど、事故防止に取り組んでいることを実感しました。

社長ご自身の健康管理・維持については、多忙の日々を過ごされる梅澤社長ですが、休日は温泉地に出向くことや、友人の手伝いで子供たちに空手を指導する機会もあるそうで、アグレッシブに休日や余暇を過ごすことでストレスを上手に解消し、リフレッシュされている様子。食事面では、偏食にならないようにと、栄養バランスの取れた食生活を心がけているとのこと。

梅澤社長にとっての「健康」とは、特別なことではなく、自然体で身についた日常生活が導いたものとお見受けしました。

最後に、当健保組合の保健事業への貴重なご意見・ご要望を頂戴し、ユーモアを交えながら取材に応じてくださいました。梅澤社長との笑顔の絶えない取材もあっという間に終了の時間を迎え、私たちは松戸運送を後にしました。

梅澤社長をはじめ、従業員の皆さま、ご協力ありがとうございます。松戸運送のますますの発展を祈念いたします。

従業員とその家族の 健康寿命延伸を目指す

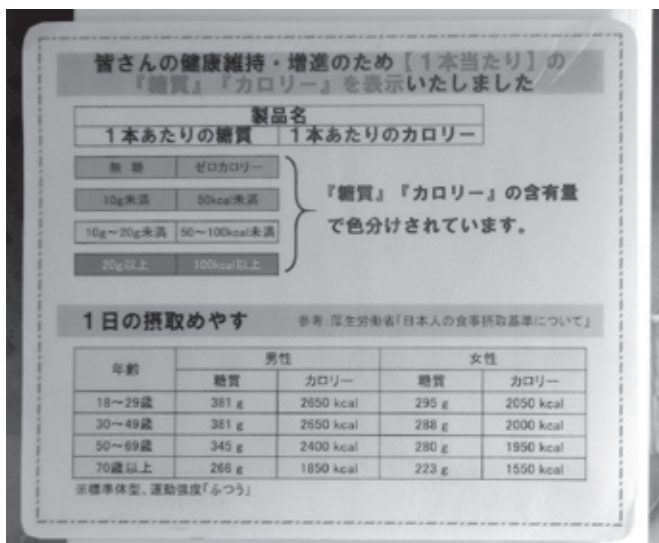
取材中、梅澤社長は幾度となく「人材は宝です！」とおっしゃいました。

梅澤社長自ら率先し、従業員一人一人の健診実施後のフォローと、その家族の健康にも関心を寄せられ、健診費用を同社で負担するなど、疾病予防に積極的に取り組まれています。さらには、禁煙支援としてポスターを独自に作成し、

でいるそうです。勤務体制の話題の中で、梅澤社長が日頃から心がけていることは、従業員が快適に働きやすい環境づくりとのこと。「どのような取り組みですか？」とお聞きすると、「従業員には子育て・介護世帯がいます。就労時間や配達地域の変更や要望があれば柔軟に対応しています。人それぞれのライフスタイルを尊重することで、気持ちよく働いてもらい、個々のモチベーションにもつなげています」と話されました。

また、日頃から従業員の何気ない一言に耳を傾けるよう心がけているそうです。現場の声を聞くことで、「業務の効率化や改善のヒントを得て、会社経営・生産性向上に役立っています」と語り、私たちが「風通しの良い職場ですね」と投げかけると、満面の笑顔でうなずかれました。肩書きなどにとらわれず、率直な意見が言い合えるフラットな職場とお見受けしました。

働きやすい環境を整えることで、従業員の生活の質の向上と、会社の生産性向上につながり、まさに「二挙両得」といえるのではないのでしょうか。



▲休憩室の自販機に貼られた糖質・カロリー表

「こちらをご覧ください」と案内された休憩所の自動販売機には、それぞれの缶ジュースの摂取カロリーを意識する工夫がされ、お手製のカロリー表が貼り付けてありました。この取り組みも分かりやすく「見える化」されています。従業員や家族が健康であり続ける会社を創るという強い信念を目の当たりにして、トラック健保が目指す健